

## 研究運営委員会拡大懇談会の概要

1. 開催日時 平成21年4月13日(月) 16:30~18:30
2. 開催場所 情報・システム研究機構事務局会議室
3. 出席者
  - 外部有識者：井村 裕夫 京都大学名誉教授、本庶 佑 総合科学技術会議議員、  
平田 正 協和発酵キリン(株)名誉相談役、水上 政之(独)科学技術振興機構理事
  - 研究運営委員会：豊田哲郎委員、長洲毅志委員、中村桂子委員、松尾泰樹委員、  
松原謙一委員長、湯本昇委員、吉田輝彦委員、吉田光昭委員、  
大久保公策委員、五條堀孝委員、高木利久委員、堀田凱樹副委員長
  - 陪席：織田哲郎 内閣府上席政策調査員、尾室幸子 農林水産省課長補佐、八木橋史子 同係長  
諸橋聡美 経済産業省係長、川上一郎 文部科学省調整官、田中康博 同調査員、  
金城玲 阪大准教授、黒田雅子 JST 課長、河村明子 同課長代理 他
4. 議事：「我国の統合データベースのあるべき姿について」
  - (1) 国の施策からの観点：内閣府統合データベースタスクフォースについて
  - (2) プロジェクト推進からの観点：
    - 「統合データベースプロジェクト」研究運営委員会からの意見とりまとめについて
  - (3) 総合討論
5. 議事概要
  - ・井村名誉教授より、総合科学技術会議の経緯と位置づけの紹介
  - ・本庶議員より、資料 1-2 に基づき、内閣府統合 DB タスクフォースの概要と結論の説明
  - ・高木委員より、資料 2-2 に基づき研究運営委員会委員の意見のまとめと統合化のビジョンの説明
  - ・主な質疑、意見
    - －恒常的なものであるという共通認識が必要
    - －国家の予算で生産されたデータが公開されないと国民の損になる
    - －省庁にまたがる問題への対応は？；応分の負担も含めて H22 年度までに検討、文科省以外のサポートがないと難しい；役所でも限界、国会議員レベルでの動きが必要
    - －国家プロジェクト予算の一定額を統合 DB 構築に拠出；1%で 40 億円程度確保できる；内閣府 TF でも拠出金方式を検討したが難しかった
    - －各省が予算を相乗りで出す方が、筋がいいのでは
    - －当面の予算は担保されているのか？；最低限のファンドはある(統合 DB プロジェクト+BIRD)
    - －推進本部とはどういうものか？；中身は議論されていない、本部を置いたことに意味がある
    - －JST で対応可能か、JST に研究組織を作るのか？；コミュニティの協力要、ファンディングでもよい；ファンディングはセンター長のリーダーシップで；センター長人事は JST 理事長matter
    - －運用だけか、研究も含むのか；基盤型と技術開発型を分けるべき；前者には公開の仕組みが必要；DB のネットワーク化だけでは期待外れ、データの統合、加工は必要、研究機能はマスト；ハードウェアも継続的な増強が必要
    - －個人ゲノムの時代にどう対応するのか；臨床データをどう扱うのかの検討が必要
    - －wet 研究者から見て使い勝手が良い、IT セントリックでないものを期待したい
    - －統合 DB プロジェクトでの経験、知識、投入されたエネルギーを活かす形で進んでほしい
    - －本庶提案を如何にいいものにするかが課題；JST、高木センターを最大限応援していきたい